

令和8年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科	学年	2	履修	必修
教科	福祉	科目名	介護福祉基礎	単位数	2
教科書名(発行所)	介護福祉基礎(実教出版)		副教材(発行所)	時数	70
目標	① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。 ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。				

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション	1. 介護の歴史と現状 2. 介護福祉士の養成 3. 介護人材の確保と定着 4. 介護従事者のキャリアアップ 5. 介護従事者の社会的地位の向上	・戦前・戦後の家族のあり方や少子高齢社会への変化など、介護保険法制度が始まった社会の背景について学ぶ。 ・介護福祉士を中心とした介護の専門職に関する法律について、その定義や資格取得方法を学ぶ。 ・介護にあたる人材の確保のため、労働環境の整備や専門性の整理が急務であることを学び、EPAに基づく多様な人材との協働を考察する。 ・介護従事者がキャリアアップをしていくための具体的な方策について理解し、自己研鑽の必要性について考察する。	○	○		14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題
	5	第2編 介護福祉の担い手 第1章 介護従事者をとりまく状況							
	6	第2章 介護従事者の役割と介護福祉士	1. 介護の役割、介護福祉士の専門性 3. 在宅介護従事者の役割 4. 施設介護従事者の役割	・求められる介護福祉士像や利用者にとってより良い介護の場を実現するために多様な職種が関わることの必要性について学ぶ。 ・在宅における介護実践のため、その特性を理解した上で、住み慣れた暮らしの維持の方法や家族への支援の方法を学ぶ。 ・施設における介護の特性、在宅との介護の違いや施設種別について理解し、専門職として施設介護への関わり方を学ぶ。 ・介護従事者に必要な専門的知識や技術・倫理的自覚について学び、その要素や実践について考察する。	○	○	○	14	・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
2	7	第3章 介護従事者の倫理	1. 専門職の倫理 2. 専門職としての基本姿勢 3. プライバシーの保護						
	8	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護を必要とする人と生活環境	1. 介護を必要とする人の生活環境 2. 介護を必要とする人の背景と生活環境	・自立した暮らしのためにバリアフリーやユニバーサルデザインを学ぶ。 ・一人ひとりの生活歴があることを意識し、その上で本人にとって暮らしやすい環境づくりに必要な支援を考察する。	○	○		6	
	9	第2章 高齢者の生活と支援	1. 高齢者の活動 2. 高齢者をとりまく環境の考え方 3. 高齢者の生活支援	・高齢者がどのような時に生きがいを感じるのか理解し、健康でいきいきと社会参加できるような仕組みを考察する。 ・高齢者の心身機能の変化、社会的な孤立などの高齢者の環境の変化を学ぶ。	○		○	6	・学習レポート、ノート ・ワークシート
	10	第5章 介護福祉サービスの概要	5. 介護サービスの場の特性(施設) 6. 施設サービス	・介護保険制度における施設サービスの役割や特徴を理解した上で、施設介護をとりまく課題を学ぶ。 ・老人福祉法・介護保険法にもとづいた施設サービスの種類と内容について理解し、利用者や家族の意向に沿ったサービスの選択を考察する。	○	○		6	・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	11	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要	7. 障害者支援サービス 8. 障害者支援サービスの実際	・障害者総合支援法の概要を理解し、利用の流れや給付の内容を学ぶ。 ・障害者雇用促進法をとおして障害者の雇用について理解し、対象者や具体的な支援を考察する。	○	○	○	7	・授業に対する主体的、協働な取り組み
3	12	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第3章 障害者の生活と支援	1. 障害とは何か 2. 肢体不自由者の生活と支援 3. 障害者の生活と支援	・障害の概念の変遷と、障害者への具体的な支援について理解する。 ・肢体不自由者の生活上の困難と支援について理解する。	○		○	7	
	1	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第3章 障害者の生活と支援	3. 視覚障害者、聴覚・言語障害者の生活と支援	・視覚障害者、聴覚・言語障害者の生活上の困難と支援について理解する。	○	○	10	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み	
	2		4. 内部障害者の生活と支援	・内部障害者の生活上の困難と支援について理解する。					
3	5. 知的障害者の生活と支援		・知的障害者の生活上の困難と支援について理解する。						
			6. 発達障害者の生活と支援	・発達障害者の生活上の困難と支援について理解する。					
			7. 精神障害者の生活と支援	・精神障害者の生活上の困難と支援について理解する。					

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	① 介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けている。 ② 介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③ より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	社会福祉基礎	単位数	1	時数	35
教科書名(発行所)	社会福祉基礎(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① 社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を身に付ける。 ② 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 ③ 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ			
1	4	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	社会保障制度の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度の基本的な考え方、各制度の内容について理解する。 社会保障制度を推進する機関とその役割について理解する。 	○	○		3	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート、ノート 課題・作品 授業に対する主体的、協働な取り組み 	
	5		子ども家庭福祉	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の児童福祉法から、現代社会の子育て支援までの推移を知る。 児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会の関わりを理解する。 保育所の歴史と現代の保育所の課題について理解する。 不登校や非行の傾向とその対応策について理解する。 子どもの貧困、社会的擁護や児童虐待について理解する。 障害のある子どものための法律と福祉サービスについて理解する。 子どもの権利条約の内容と社会への影響について理解する。 	○	○	○	11		
	6			高齢者福祉と介護保険制度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の高齢化の実態と課題について理解する。 介護保険制度の目的と内容について理解する。 介護保険制度の見直しの内容とその背景について理解する。 高齢者の在宅サービス(福祉系・医療系)の概要を理解する。 介護保険制度における地域密着サービスや施設サービスの概要を理解する。 老人福祉施設と高齢者向け住宅について理解する。 認知症高齢者の特徴とその支援策について理解する。 	○		○		5
	7				生活支援のための公的扶助	<ul style="list-style-type: none"> 生活保護制度の目的と役割、基本原理、基本原則を理解する。 生活保護制度の保護の種類及び基準を理解する。 生活保護制度の実施運営体制を理解する。 新しい法律である生活困窮者自立支援法や生活福祉資金貸付制度などの支援施策を理解する。 	○	○		○
2	8	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	国民の生活を支える社会保険制度	<ul style="list-style-type: none"> 役割や特徴、そのしくみを理解する。 我が国の医療保険制度の概要を理解する。 我が国の高齢者医療制度や医療提供体制のしくみについて理解する。 公的年金制度の概要、財政、管理組織について理解する。 公的年金の種類、年金額の改定のしくみ、企業年金について理解する。 雇用保険、失業等への対応、育児・介護休業制度、労働者災害補償保険のしくみについて理解する。 	○	○		9	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート、ノート 課題・作品 授業に対する主体的、協働な取り組み 	
	9			障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障害者基本法における障害者の定義を理解する。 障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。 	○				4
	10				<ul style="list-style-type: none"> 生活保護制度の目的と役割、基本原理、基本原則を理解する。 生活保護制度の保護の種類及び基準を理解する。 生活保護制度の実施運営体制を理解する。 新しい法律である生活困窮者自立支援法や生活福祉資金貸付制度などの支援施策を理解する。 	○	○	○		3
3	11	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障害者基本法における障害者の定義を理解する。 障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。 	○			4	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート、ノート プレゼン 授業に対する主体的、協働な取り組み 	
	12									
1	1	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障害者基本法における障害者の定義を理解する。 障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。 	○			4	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート、ノート プレゼン 授業に対する主体的、協働な取り組み 	
2										
3	3	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障害者基本法における障害者の定義を理解する。 障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。 	○			4	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート、ノート プレゼン 授業に対する主体的、協働な取り組み 	
1										

35

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	20				30	20	30					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	20				20			30	30			100	10
評価の重点	①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「生活支援技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	生活支援技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	生活支援技術(実教出版)		副教材(発行所)	生活支援技術Ⅰ・生活支援技術Ⅱ(中央法規)			
目標	①自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 第2編 自立に向けた生活支援	1. 入浴・清潔保持の意義と目的	・清潔にする・清潔を保つことの意義や目的、入浴の作用、アセスメントの視点を理解し、自立に向けた入浴・清潔保持の支援について考察する。	○		○	10	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	5	第6章 入浴・清潔保持の支援 (清拭・足浴)	2. 入浴・清潔保持の支援の事前準備や留意点	・入浴の一連の流れや汚れやすい部位を理解し、利用者が安全で安楽な入浴・清潔保持を可能にする準備や留意点の視点を身につける。					
	6	第9章 レクリエーションの支援	1. レクリエーションの意義と目的	・レクリエーションの意義と目的を理解し、レクリエーションの支援における介護従事者の役割について考察する。	○	○			
	7		2. レクリエーションの支援の技法	・レクリエーションの支援の技法を理解し、利用者の生活を活性化させ、生きる意欲を高めるための支援技術を身につける。					
2	8	第2編 自立に向けた生活支援	ケアコンテスト	・課題事例に対する取組を行う中で、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる知識や技術を身に付ける。	○	○	○	14	・実習レポート ・コンテスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	9								
	10	第6章 入浴・清潔保持の支援 (個浴)	2. 入浴・清潔保持の支援の事前準備や留意点	・入浴の一連の流れや汚れやすい部位を理解し、利用者が安全で安楽な入浴・清潔保持を可能にする準備や留意点の視点を身につける。	○	○		14	
	11								
12	第7章 排泄の支援	1. 排泄の意義と目的	・排泄の意義や目的、排泄のしくみ、アセスメントの視点を理解し、自立に向けた排泄の支援について考察する。	○		○	4		
3	1	第7章 排泄の支援 (ポータブルトイレ・おむつ)	2. 排泄の支援の技法	・排泄の支援の技法を理解し、利用者の心身の状況に応じた安全で安楽な介護技術を身につける。	○	○		18	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能				60	20	20						100	50
Ⅱ 思考・判断・表現				20	50	20		10				100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					30				30	40		100	20
評価の重点	①サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な支援のための知識や技術が身に付いているか ②「安全・安楽」「個人の尊厳」など、サービス利用者の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身に付いているか。 ③主体的かつ協動的に学ぶことができているか。支援者としてふさわしい身だしなみを常に整えることができているか。												

令和8年度 「福祉情報」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	福祉情報	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	副教材(発行所)	福祉情報活用(実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級					
目標	① 情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を習得する。 ② 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 第6章 情報の処理・分析・発信	1 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい文章、文章構成の工夫、敬語表現の必要性を理解する。 ビジネス文書の種類と基本的な構成を理解する。 ビジネス文書検定3級の知識を理解し、技術を身に付ける。 	○	○	○	21	
	5								
	6								
2	7	第6章 情報の処理・分析・発信	1 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成ソフトウェアの基本操作と編集機能を理解し、身に付ける。 文書作成ソフトウェアへの画像挿入等の方法を理解し、自己紹介カード(実習施設へ)作成を行う。 	○	○	○	8	<ul style="list-style-type: none"> 課題 プレゼン 授業に取り組む姿勢、意欲 定期考査 検定学習に取り組む姿勢、意欲
	8								
	9		2 表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> 情報を分析することの重要性を理解する。 表とグラフの基礎を理解する。 表計算ソフトウェアの基礎を理解し、グラフを作成する。 関数を用いて情報を分析する。 	○	○	○	21	
	10								
	11								
12	第2章 情報モラルとセキュリティ	1. ネットワーク社会の危険性 2. 情報モラルとマナー 3. セキュリティ管理 4. 情報機器の仕組みとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> 個人のプライバシーの侵害、著作権などの知的財産の侵害、収集した情報の管理、情報の発信者としての責任など、情報を扱う上で必要な情報モラルを学ぶ。また、情報機器の基本的な機能を充実させる主な周辺機器の役割、基本的なアルゴリズムやプログラムの活用について理解する。 	○			6		
3	1	第6章 情報の処理・分析・発信	3 アンケート作成ソフトの利用 4 プレゼンテーションソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> アンケート機能について理解する。 テーマに沿ったアンケートを作成し、集計をする。 プレゼンテーションについて理解する。 プレゼンテーションの準備を理解する。 プレゼンテーションソフトウェアを活用する。 効果的なスライドを設定する。 スライドの実行とシナリオを作成する。 作成したスライドで発表を行う。 	○	○	○	14	
	2								
	3								

70

【観別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	50	20				20			10			100	60
Ⅱ 思考・判断・表現	20					40	30		10			100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20	20	20		40			100	10

評価の重点

- ① 情報と情報技術を活用し、問題を発見・解決する方法を身につけている。
- ② 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達することができる。

令和8年度 「 ころとからだの理解 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	必修	
教科	福祉	科目名	ころとからだの理解	単位数	1	時数	35
教科書名(発行所)	ころとからだの理解(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行う上で必要なころとからだの基本的しくみを習得する。 ② 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ③ 保健医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を身に付ける。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	第4章 障害と地域生活支援	1. 障害のある人の地域生活上の困難と支援 2. 障害のある人の地域サポート体制 3. 家族への支援	・ピアサポートを含むチームアプローチについて理解し、具体例を通して生活上の困難と支援について考察する。 ・障害者が地域で暮らしていくために障害者の主体性を尊重しながら、地域行政、関係機関や地域自立支援協議会などと連携して、障害者の生活を支援するサポート体制づくりについて学ぶ。 ・家族への心理的支援や障害受容への支援、レスパイトケアなど家族への支援について学ぶ。	○	○		14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	5								
	6								
	7								
2	8	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	1. 身体障害	・身体障害の種類や特性について理解し、聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、内部障害など各種の障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○		3	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	9		2. 精神障害 3. 知的障害	・精神障害の種類と原因、関連する症状について学び、生活上の困難について考察する。 ・知的障害の定義と特性を理解し、言語発達の遅れや発達の遅れに関わる生活上の困難について考察する。	○	○		3	
	10		4. 発達障害	・発達障害の定義と特性を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○		3	
	11		5. 高次脳機能障害	・高次脳機能障害の種類と症状を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○	○	3	
	12		6. 難病	・難病の種類と症状を理解し、難病が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○	○	3	
3	1	第2編 生活支援に必要なころとからだのしくみの理解 第2章 生活場面の变化に関するころとからだのしくみ	3. 災害時に関するころとからだのしくみ 4. 終末期に関するころとからだのしくみ	・災害時に起こりやすい症状について理解し、災害発生時の対応や災害時のころのケアについて考察する。 ・終末期に関するころとからだの関係について理解し、多職種との連携による看取りのケアや家族への支援について学ぶ。	○	○		6	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	2								
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現					40	20	20	20				100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	① 自立生活の支援に必要なころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 自立生活の支援に必要なころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、ころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「コミュニケーション技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	必修	
教科	福祉	科目名	コミュニケーション技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行人)	コミュニケーション技術(実教出版)		副教材(発行人)				
目標	① 福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身に付けるようにする。 ② 実践的・体験的な学習活動を通し、コミュニケーションに関する諸課題について発見し、解決する力を養う。 ③ 福祉実践におけるチームのコミュニケーション構築のために必要な資質・能力を育成する。						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法					
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ							
1	4	サービス利用者とのコミュニケーション①	障害とコミュニケーション	・知的障害のある人に対する意思決定支援や具体的なコミュニケーションの方法について学び、知的障害のある人の家族への支援について考察する。 ・知的障害のある人に対する合理的配慮やコミュニケーション方法を理解し、コミュニケーションをとるために、ICT機器などのツールがどのように活用されているかを理解する。 ・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 ・発達障害の特性を理解し、発達障害のある人との具体的なコミュニケーションの方法について学び、発達障害のある人の家族への支援について考察する。	○	○		14	・レポート ・課題 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み					
	5				施設実習(障害) 実習準備・実践	・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 ・円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方について理解する。	○			○	○	12		
	6						施設実習(障害) 実習まとめ			・コミュニケーション実践を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。	○		○	10
	7										サービス利用者とのコミュニケーション②		地域とのコミュニケーション	
8	チームによる連携	チームのコミュニケーション	・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。	○	○	14								
9				サービス利用者とのコミュニケーション③	・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。		○	○	14					
10							サービス利用者とのコミュニケーション③	・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。		○	○	14		
11	サービス利用者とのコミュニケーション③	・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。	○	○	14									
12			サービス利用者とのコミュニケーション③	・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。		○	○	14						
1	チームによる連携	チームのコミュニケーション			・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。	○	○		14					
2			チームによる連携	チームのコミュニケーション		・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。	○	○		14				
3							チームによる連携	チームのコミュニケーション			・介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通じ、考察する。 ・福祉機器展inうたへの参加し、福祉用具を活用することを理解するとともに、福祉用具専門員やメーカーとの連携について理解する。	○	○	14

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能			10		40	40	10					100	30
Ⅱ 思考・判断・表現			10		30	20	30	10				100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20		10	10	20	10	20	10		100	30
評価の重点	①福祉実践におけるコミュニケーションと関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身につけているか。 ②介護者としての倫理観をふまえて、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけているか。 ③福祉の見方・考え方を働かせ、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけているか。												

令和8年度 「 課題研究 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	必修	
教科	福祉	科目名	課題研究	単位数	3	時数	105
教科書名（発行所）		副教材（発行所）					
目標	(1) 地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

（注）評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 探求入門 地域福祉の現状を知る	高齢者・障がい者・児童の 地域生活を知る	・福祉の現状について調べ、課題を見つける。	○		○	9	
	5	課題設定 課題発見	交流学習に向けての目標設定 ・施設調べ	・課題について、解決へ向けての方法を調べる。	○		○	9	
	6	実践（交流学習）	高齢者・障がい者・児童の 地域生活に関する交流学習	・課題解決へ向けた取り組みを、地域の方々と交流、実践を通して 見つける。	○	○		18	
	7	活動の振り返り	地域生活を支えるために (交流学習の振り返り)	・地域交流を通して見えてきた課題などを再検討し、解決へ向けた 検討を進める。					
2	8	発表会準備 発表会	プレゼンテーション準備 プレゼンテーション	・これまでの内容をまとめ、発表する。	○	○		18	・授業に取り組む姿勢、意欲、 ・校外学習に取り組む姿勢、意欲 ・レポート、発表、提出物の内容、取り組み姿勢
	9	福祉課題の解決方法を探る	講演会 講演会の振り返り	・地域社会で活躍している方々に、地域で抱えている困難や取り組みについて教えてもらう。					
	10	実践（課題解決に向けた福祉実践）	高齢者・障がい者・児童に関する福祉実践	・課題解決へ向けた取り組みを、地域の方々と交流、実践を通して 見つける。	○	○	○	27	
	11								
12									
3	1	発表会準備 発表会 まとめ	プレゼンテーション準備 プレゼンテーション 発表のまとめと振り返り	・1年間の内容をまとめ、発表する。			○	○	24
	2								
	3								

105

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能			70		10		20					100	40
Ⅱ 思考・判断・表現			10		50		20		20			100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20				20		40	20		100	20
評価の重点	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②地域での取り組みと、各取り組みでの提出課題												

令和8年度 「 介護総合演習 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	必修	
教科	福祉	科目名	介護総合演習	単位数	1	時数	70
教科書名（発行所）			副教材（発行所）				
目標	①地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法			
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ					
1	4	施設実習に向けた学習	1 施設実習<障害> オリエンテーション	・施設実習の意義と目的を理解するとともに、実習の内容や実習期間を把握する。	○			3	・レポート			
	5		2 施設実習<障害>	・サービス利用者の個性、障害の程度、生活背景、就労支援などを理解し、一人ひとりの生活課題について理解する。 ・サービス利用者の心身の状態に応じたコミュニケーション技法を学び実践する。	○	○	○	7	・発表プレゼン ・実習に関する課題（実習記録）			
	6				・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働的な取り組み							
	7				3 施設実習報告会	・実習での学びを仲間と共有することで、福祉の多様性について考察する。		○	○	4	・小テスト	
2	8	分野別学習	4 個人研究活動	・自らの体験を振り返り、活動や学びを通して生まれた疑問を課題として設定し、更なる研究を行う。 ・課題に関連する情報収集を行い、原因を分析する。	○	○	○	8	・レポート ・発表プレゼン			
	9				5 まとめ	・課題に対し、福祉で得た学びを横断的・総合的に活かし解決策を立案する。	○	○	○	3	・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働的な取り組み	
	10						6 発表会①（経過）	・研究を行った内容について、発表し仲間同士でアドバイスをし合い、本発表に向けてまとめを行う。	○	○	○	3
	11								6 発表会②（本発表）	・実習や様々な活動から得た学びを後輩に共有する。		
3	1	まとめ	7 学習のまとめ	・一年間の学習成果をレポートにまとめる。	○	○	○	7	・レポート ・発表プレゼン ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働的な取り組み			
	2											
	3											

35

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		20	50			30						100	20
Ⅱ 思考・判断・表現			30		20		40	10				100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20		20		20	10	20	10		100	40
評価の重点	①サービス利用者や施設の社会的役割について理解するとともに、福祉施設で求められる基本的な支援を実践する知識や技術が身につけている。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を解決するために必要な、援助者としての倫理観と、合理的かつ創造的に解決する能力が身につけている。 ③主体的かつ協動的に学ぶことができている。援助者としてふさわしい接遇マナーが身につけている。												

令和8年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科	学年	3	履修	必修
教科	福祉	科目名	介護福祉基礎	単位数	2
教科書名(発行所)	介護福祉基礎(実教出版)・コミュニケーション技術(実教出版)		副教材(発行所)	時数	70
目標	① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。 ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。				

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	(コミュニケーション技術)第2編サービス利用者や家族とのコミュニケーション 第2章サービス利用者に応じたコミュニケーション	2. 障害とコミュニケーション 3. 視覚障害のある人とのコミュニケーション 4. 聴覚障害のある人とのコミュニケーション 5. 言語障害のある人とのコミュニケーション 7. 知的障害のある人とのコミュニケーション 8. 発達障害のある人とのコミュニケーション 10. 精神障害のある人とのコミュニケーション	・障害に対する理解や障害のとのらえ方をふまえ、障害に応じたコミュニケーションの必要性について考察する。 ・視覚障害のある人との心理を理解し、適切なコミュニケーションの方法について考察する。 ・聴覚障害のある人との個々の状況に応じた効果的なコミュニケーションの方法について考察する。 ・言語障害のある人との個々の状況に応じた適切なコミュニケーションの方法について考察する。 ・知的障害のある人に対する意思決定支援や具体的なコミュニケーションの方法について学び、知的障害のある人の家族への支援について考察する。 ・発達障害の特性を理解し、発達障害のある人との具体的なコミュニケーションの方法について学び、発達障害のある人の家族への支援について考察する。 ・精神障害のある人との症状に合わせたコミュニケーションの方法について考察する。	○	○	○	28	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	5				○	○	○		
	6				○	○	○		
	7				○	○	○		
2	8	第4編介護における安全確保と危機管理 第1章介護における安全と事故対策	1. 介護におけるリスクマネジメント 2. 事故予防のための対策 3. 介護現場で多い事故 4. 身体拘束の禁止 5. 介護現場における防災対策	・安全で安心な暮らしを守るため、リスクが生じやすい場面やその対応やリスクマネジメントについて学ぶ。 ・高齢者の身体的・心理的特徴を踏まえて、生じやすい事故について理解し、事例を通して改善策や防止策を考察する。 ・安全で安心な暮らしを守るため、日ごろから準備をしておくことを理解し、災害時に福祉施設が担う役割を考察する。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	9				○	○	○		
	10				○	○	○		
	11				○	○	○		
3	12	第3章感染対策 (1)疥癬 (2)インフルエンザ (3)ノロウイルス食中毒 (4)腸管出血性大腸菌感染症(O157) (5)その他の感染症	1. 感染症の理解 2. 感染症の予防策 3~7. 介護現場で出会うことの多い感染症 (1)疥癬 (2)インフルエンザ (3)ノロウイルス食中毒 (4)腸管出血性大腸菌感染症(O157) (5)その他の感染症	・介護従事者の健康管理が介護の質にかかわることを理解し、健康管理の重要性を学ぶ。 ・よりよい介護を提供するため、介護従事者の身体面の健康管理が必要なことを理解し、腰痛の予防策や機器の利用方法を学ぶ。 ・感染症のしくみを理解し、法律にもとじた対策を学ぶ。 ・感染症の基本的な予防策を理解し、介護施設における感染対策の必要性について学ぶ。 ・疥癬、インフルエンザ、ノロウイルス食中毒、腸管出血性大腸菌感染症などの代表的な感染症の原因、感染経路、症状について理解し、感染対策について考察する。	○	○	○	12	・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	1				○	○	○		
3	2	第4編介護における安全確保と危機管理 第4章福祉用具と介護ロボット	1. 福祉用具と介護ロボットの必要性 2. 福祉用具と介護ロボットの有効的な活用	・利用者の尊厳を守り、自分らしい生活を実現するために福祉用具を活用することを理解し、どのような影響があるか考察する。	○	○	○	10	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	3				○	○	○		
	3				○	○	○		

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	①介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けている。 ②介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③よりよい介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	必修	
教科	福祉	科目名	社会福祉基礎	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	社会福祉基礎（実教出版）		副教材（発行所）				
目標	① 社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を实践する態度を身に付ける。 ② 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 ③ 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者基本法における障害者の定義を理解する。 ・障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。 ・日本における障害者数を把握し、表や図から障害者の生活における課題について理解する。 ・障害者福祉の理念として、ノーマライゼーションの理念や自立生活運動の理念を理解する。 ・障害者福祉政策の基軸である障害者総合支援法、障害者の雇用の促進等に関する法律について理解する。 ・身体障害者福祉政策の基軸である身体障害者福祉法について理解する。 ・知的障害者に対する制度上の支援の仕組みや現状を理解する。 ・精神障害者に対する制度上の支援の仕組みや現状を理解する。 ・発達障害者支援法を中心とした発達障害者に対する支援体制を理解する。 ・障害者総合支援法のしくみや現状を理解する。 ・障害者福祉の今後のあり方について国連や条約の動きを理解する。 	○	○	○	14	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート、ノート ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	5								
	6								
	7								
2	8	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	多様な社会的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活に向けた司法と福祉の連携のあり方について理解する。 ・認知症高齢者や知的障害者の権利擁護として日常生活自立支援事業や成年後見制度の仕組みを理解し、今後の支援のあり方を考察する。 	○	○	○	5	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート、ノート ・グループワーク ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	9								
	10		地域福祉の進展と地域の将来	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立を防ぐため、つながりの再構築が必要なことを理解し、地域社会における社会福祉の役割について考察する。 ・地域共生社会の実現のために必要な支援を理解し、今後の社会に必要な福祉専門職の役割について考察する。 	○	○	○	9	
	11								
12									
3	1	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	地域福祉を推進する専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を推進する専門職の方と意見交換を行い、地域の課題を理解し、誰もが住みやすいまちづくりを考察する。 	○	○	○	7	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート、ノート ・グループワーク ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	2								
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	20				30	20	30					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	20				20			30	30			100	10
評価の重点	① 社会福祉の实践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「生活支援技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	選択	
教科	福祉	科目名	生活支援技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	生活支援技術(実教出版)		副教材(発行所)	生活支援技術Ⅰ・生活支援技術Ⅱ(中央法規)			
目標	① 自立生活の支援について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 第4章 移動・移乗の支援	<移動の支援> 上方移動 水平移動 仰臥位から側臥位 仰臥位から端座位 端座位から立位 車いすへの移乗 杖歩行の支援	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動を支援する知識や技術を身に付ける。	○	○	○	21	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・レポート ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	5								
	6								
2	7	第2編 自立に向けた生活支援	ケアコンテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・課題事例に対する取組を行う中で、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる知識や技術を身に付ける。 	○	○	○	22	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・レポート ・コンテスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	8								
	9								
	10		介護教室	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた介護技術を、適切に他者へ伝えることができる知識や技術を身に付ける。 	○	○	13		
	11								
	12								
3	1	第3編 緊急時・災害時の支援 第1章 緊急時の支援 第2章 災害時の支援	1. 災害時における介護従事者の役割 2. 災害時における生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類や被災地で活動する際の心構えを理解し、災害時における介護従事者の役割について考察する。 ・災害時における利用者の生活支援や多職種連携の必要性を理解し、災害時に介護従事者としての確に行動できる技術を身に付ける。 	○	○	14	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・レポート ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み 	
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能				60	20	20						100	50
Ⅱ 思考・判断・表現				20	50	20		10				100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					30				30	40		100	20
評価の重点	① サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な支援のための知識や技術が身に付いているか ② 「安全・安楽」「個人の尊厳」など、サービス利用者の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身に付いているか。 ③ 主体的かつ協動的に学ぶことができているか。支援者としてふさわしい身だしなみを常に整えることができているか。												

令和8年度 「福祉実践」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	3	履修	選択	
教科	福祉	科目名	福祉実践	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	コミュニケーション技術(美教出版)		副教材(発行所)				
目標	1 福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身に付けるようにする。 2 実践的・体験的な学習活動を通し、コミュニケーションに関する諸課題について発見し、解決する力を養う。 3 福祉実践におけるチームのコミュニケーション構築のために必要な資質・能力を育成する。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 第1編 福祉実践におけるコミュニケーション	第1章 コミュニケーションの意義と役割 第2章 コミュニケーションの基本技術	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、他者理解や人間関係におけるコミュニケーションの意義と役割について理解する。 コミュニケーションの特性と効果的なコミュニケーションの技法について理解する。 	○	○	○	14	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの課題、演習 授業に取り組む姿勢、意欲 校外実践学習に取り組む姿勢、意欲
	5								
	6	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第1章 サービス利用者や家族との関係づくり 第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族とよりよくなかかわるためのコミュニケーションについて理解する。 利用者や家族の支援に必要なコミュニケーションの方法について理解する。 サービス利用者の特性に応じたコミュニケーションの方法について理解する。 	○	○	○	12	
	7								
2	8	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第1章 サービス利用者や家族との関係づくり 第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族とよりよくなかかわるためのコミュニケーションについて理解する。 利用者や家族の支援に必要なコミュニケーションの方法について理解する。 サービス利用者の特性に応じたコミュニケーションの方法について理解する。 	○	○	○	30	
	9								
	10	第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	第2章 チームによる連携	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んできたサービス利用者とのかかわり方やコミュニケーションを活用し、地域の施設で実際に交流等を踏まえた実践的な活動をする。 	○	○	○		
	11								
12									
3	1	第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	第2章 チームによる連携	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の活動の振り返り、まとめの方法について理解する。 活動報告、発表の方法について理解する。 	○	○	○	14	
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		20			10							30	30
Ⅱ 思考・判断・表現			10			10	10		10			40	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			10					10	10			30	30
評価の重点	①授業や演習、発表に取り組む意欲・態度 ②地域での取り組みと、各取り組みでの提出課題												

令和8年度 「 介護総合演習 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	福祉	科目名	介護総合演習	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）			副教材（発行所）				
目標	①地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法		
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ				
1	4	施設実習に向けた学習	1 施設実習 オリエンテーション① (高齢者施設を知る)	<ul style="list-style-type: none"> 施設実習の意義と目的を理解するとともに、実習の内容や実習期間を把握する。 実習施設（高齢者施設）の概要や、施設における介護職員の主な業務内容について理解する。 	○			3	<ul style="list-style-type: none"> レポート 実習に関する課題 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 小テスト 		
	5				○	○	○	3			
	6				2 施設実習 オリエンテーション② (実習記録の記入方法)	<ul style="list-style-type: none"> 客観的な記録により利用者理解につながることを理解するとともに、適切な記録の書き方を学ぶ。 個人情報の保護の重要性について理解する。 	○	○			4
	7				3 実習への課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 実習の目標を設定するとともに、実習評価について理解することより、主体的に介護実習に取り組む姿勢を身につける。 	○	○		○	4
2	8	施設実習に向けた学習	4 施設実習 事前準備① (コミュニケーション、 接遇マナー)	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者として人間形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 利用者の尊厳を守り、信頼関係を気づくための接遇マナーを身につける。 	○	○		2	<ul style="list-style-type: none"> レポート 実習に関する課題（実習記録） 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 小テスト 		
	9		5 施設実習 事前準備② (認知症に関する学習、 レクリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症および認知症の人を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身につける。 利用者支援に必要な個別レクリエーションや集団レクリエーションは持つ意味を理解する。 	○		○	3			
	10		6 レクリエーション計画の 作成	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の状態に合わせたレクリエーションの計画手法を学ぶ。 	○			3			
	11		7 施設実習	<ul style="list-style-type: none"> 介護の場における基本的な介護技術を実践し、習得する。 実践を通じ、自立生活支援のために介護が提供されていることを理解する。 実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 	○	○	○	3			
	12		8 実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験を振り返り、自己の実践上の課題等を再認識することで、今後の学習に生かしていく主体性を身につける。 実習での学びを仲間と共有することで、福祉の多様性について考察する。 	○	○	○	3			
3	1	施設実習のまとめ	9 福祉に関する 専門職 (調査)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する専門職の資格とその専門性、キャリア形成のあり方について調べる。 	○			3	<ul style="list-style-type: none"> レポート 発表プレゼン 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 		
	2		10 福祉に関する 専門職 (発表)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する専門職について調べた内容を仲間と共有することで、より良い支援のために必要な職種連携について考察する。 	○	○	○	3			
	3		11 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の学習成果をレポートにまとめる。 	○	○	○	1			

35

【観別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		20	50			30						100	20
Ⅱ 思考・判断・表現			30		20		40	10				100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20		20		20	10	20	10		100	40
評価の重点	①サービス利用者や施設の社会的役割について理解するとともに、福祉施設で求められる基本的な支援を実践する知識や技術が身につけている。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を解決するために必要な、援助者としての倫理観と、合理的かつ創造的に解決する能力が身につけている。 ③主体的かつ協動的に学ぶことができている。援助者としてふさわしい接遇マナーが身につけている。												

令和8年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	福祉	科目名	介護福祉基礎	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	介護福祉基礎・こころとからだの理解(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。 ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション	1. 介護の意義、役割、尊厳を支える介護 2. 利用者主体の介護サービス 3. 介護を必要とする高齢者の人権と尊厳 4. 介護を必要とする障害者の人権と尊厳	・基本的人権の尊重の実現を目指した介護の意義や役割を理解し、生活の質を高める介護について考察する。 ・利用者主体の介護の実現のため、自己決定の重要性を理解し、自己決定に向けた支援について考察する。	○	○		14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	5	第1編 介護の意義と役割 第1章 尊厳を支える介護	1. 自立を支援する専門職 2. 個性を尊重した自立のための支援	・介護分野における自立のあり方について理解し、その本質や介護従事者としての関わり方を考察する。 ・基本的人権の尊重を意識しながら、ICFモデルへの改訂が行われた背景を理解し、利用者のQOLを高める方法や虐待防止策について考察する。					
	6	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1. 観察 2. コミュニケーション 3. 介護技術の基本 4. 居住環境の整備 5. 移動の支援(1) 6. 移動の支援(2)	・介護が必要な人たちの自立した生活を目指して観察することの意義を理解し、場面に応じた観察するべきポイントを学ぶ。 ・コミュニケーションの種類や方法、目的を理解し、信頼関係の構築に必要な基本的態度や他の職種との連携を考察する。 ・介護者や利用者の双方のためにボディメカニクスを生かすことを理解し、より効果的に行うための方法について学ぶ。 ・利用者の自立した生活のために安全な環境づくりの方法を学ぶ。 ・移動することについての意義や目的を理解し、日常生活との関連や具体的な支援の方法を学ぶ。	○		○		
7	第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援								
2	8	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	7. 食事の支援 9. 身じたくの支援 8. 排せつの支援 10. 入浴の支援 11. 睡眠・休養の支援	・食事の意義や目的を理解し、食べることの楽しみをふまえてつづ、安全な食事支援を考察する。 ・身じたくを整えることについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な着脱の支援を学ぶ。 ・排せつの意義や目的を理解し、利用者の状態に応じた安全な排せつ行為の支援を考察する。 ・清潔を保つことについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な入浴の支援を学ぶ。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	9	第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援							
	10	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要	1. 介護サービスの利用方法 2. 介護サービスの場の特性(在宅) 3. 居宅介護サービス 4. 地域密着型サービス	・介護保険制度の目的を理解し、ケアマネジメント業務や利用できるサービスを学ぶ。 ・介護保険制度における居宅サービスの役割や特徴を理解した上で、在宅介護をとりまく課題を学ぶ。 ・地域密着型サービスの役割や種類を理解し、地域との交流や介護予防の観点をふまえたサービスのあり方を学ぶ。	○	○		6	
11	(発展) 介護職員初任者研修のまとめ	・介護職員初任者研修修了に向けた12学期の総復習	・介護職員初任者研修における学びを復習し、必要な知識・技術を確実に身につける。	○	○	○	14		・授業に対する主体的、協働な取り組み
12									
3	1							10	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	2	第2章 高齢者の生活と支援 (こころとからだの理解)	3. 高齢者の生活支援	・認知症の原因となる疾患と心身の変化や心理状態を理解し、認知症の人を中心にすえた生活支援を行うための基礎知識を学ぶ。 ・認知症の具体的な診断方法について理解し、生活に即した診療を行っていくための医療連携について考察する。 ・認知症の医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患と生活支援を行うための根拠を学ぶ。 ・認知症の治療の目的と薬物療法について学ぶ。	○		○		
	3								

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		60	20			20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	① 介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けている。 ② 介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③ より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	福祉	科目名	社会福祉基礎	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	社会福祉基礎(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① 社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を身に付ける。 ② 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 ③ 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉	・日本の人口の推移とそれに伴う社会福祉の課題について理解する。 ・産業構造の変化や地域社会の変化について理解する。 ・家族の多様化と働き方の変化について理解する。 ・疾病構造の変化が医療に及ぼす影響と健康増進の取り組みを知る。 ・人の一生に社会福祉が様々な形で関わっていることを理解する。	○	○	○	7	・定期考査 ・レポート、ノート ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	5		社会福祉の理念	・福祉の基礎となる理念について理解する。 ・日本国憲法の人権規定と社会福祉との関わりを学ぶ。 ・地域社会と社会福祉との関わりについて理解する。		○		7	
	6		人間の尊厳と 新たな福祉社会の創造	・基本的価値としての人間の尊厳について理解する。 ・自立生活支援の考え方と今後の展望について理解する。 ・新たな福祉社会と求められる担い手や活動について理解する。	○	○	○	12	
	7								
2	8	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	高齢者福祉と介護保険制度	・高齢者の在宅サービスの概要を理解する。	○	○		3	・定期考査 ・レポート、ノート ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	9	社会福祉の歴史と 次世代の展望	諸外国における社会福祉	・社会福祉の歴史の流れを理解する。 ・イギリスの福祉国家の誕生の流れを理解する。 ・イギリスの福祉国家の危機と改革の歴史を理解する。 ・アメリカの社会福祉の歴史と特徴を理解する。 ・北欧の社会福祉の歴史と理念について理解する。 ・ドイツとフランスの社会保障の歴史を理解する。 ・アジア諸国の社会福祉の歴史と課題について理解する。	○	○	○	21	
	10								
	11								
12									
3	1	社会福祉の歴史と 次世代の展望	日本における社会福祉	・慈善事業や社会事業が生まれた社会背景について理解する。 ・第二次世界大戦が後の社会保障の基礎を作った経緯を理解する。 ・戦後の社会福祉制度の構築の過程と理念について理解する。 ・国民年金と皆保険の成立、福祉六法体制確立の背景を理解する。 ・在宅福祉の充実をめざす福祉改革の背景を理解する。 ・子どもおよび家庭への支援施策の拡充の歩みを理解する。 ・障害者施策の拡充の歩みを理解する。 ・近年の福祉の大きな変化と今後の福祉社会のあり方を考える。	○	○	○	20	・定期考査 ・レポート、ノート ・プレゼン ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	20				30	20	30					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	20				20			30	30			100	10
評価の重点	①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「生活支援技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	福祉	科目名	生活支援技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	生活支援技術(実教出版)		副教材(発行所)	生活支援技術Ⅰ・生活支援技術Ⅱ(中央法規)			
目標	① 自立生活の支援について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション 第2編 自立に向けた生活支援 第4章 移動の支援 第8章 睡眠・休養の支援	1 介護技術の基本 ボディメカニクス	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽で潜在的能力を引き出すための介護技術の基本について、関節可動域やボディメカニクスを活用する意義を理解し、関連する技術を身に付ける。	○		○	5	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	5		2 居住環境の整備 ベッドメイキング	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で快適な居住環境の整備について理解するとともに関連する技術を身に付ける。	○	○	○	10	
	6		3 移動の支援 車いすの介助	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動を支援する知識や技術を身に付ける。	○		○	5	
	7		4 食事の支援	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で楽しい食事の支援について理解する。食事の意義や目的、食べる意欲を支える支援方法を身に付ける。	○		○	6	
2	8	第2編 自立に向けた生活支援 第3章 身じたくの支援 第4章 移動・移乗の支援 第5章 食事の支援	5 身じたくの支援 前開き上衣の着脱 かぶり上衣の着脱 スポンの着脱	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な身じたくの支援について理解する。衣服の着脱の意義や目的、身じたくへの意欲や装いの楽しみ、その人らしさの表現としての身だしなみの支援について、知識や技術を身に付ける。	○	○	○	10	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	9		6 移動の支援 上方移動 水平移動 仰臥位から側臥位 仰臥位から端座位 端座位から立位 車いすへの移乗 杖歩行の支援	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動を支援する知識や技術を身に付ける。	○	○		16	
	10		7 介護技術コンテスト	課題事例に対する取組を行う中で、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる知識や技術を身に付ける。	○	○		18	
	11		12						
3	1	第2編 自立に向けた生活支援							・コンテスト ・実習レポート ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能				60	40							100	50
Ⅱ 思考・判断・表現				20	50	20		10				100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					30				30	40		100	20
評価の重点	① サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な支援のための知識や技術が身に付いているか ② 「安全・安楽」「個人の尊厳」など、サービス利用者の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身に付いているか。 ③ 主体的かつ協動的に学ぶことができているか。支援者としてふさわしい身だしなみを常に整えることができているか。												

令和8年度 「 ころとからだの理解 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	ころとからだの理解	単位数	1	時数	35
教科書名(発行所)	ころとからだの理解(実教出版)			副教材(発行所)			
目標	① サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行う上で必要なころとからだの基本的しくみを習得する。 ② 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ③ 保健医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を身に付ける。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	オリエンテーション	1. 発達 2. 発達段階 3. 発達課題	・人間の成長と発達に影響を与える要因について理解し、からだの発達には一定の順序性があることを学ぶ。 ・主な発達段階について理解し、プロセスを段階に分けることにより、各段階に応じた支援も行いやすくなることを学ぶ。 ・発達課題について理解し、各ライフサイクルにおける特徴と課題について考察する。	○	○		7	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題
	5	第3編 発達と老化の理解 第1章 人間の成長と発達							
	6	第2章 老年期の理解と日常生活			・人間発達論や発達段階、発達課題から老年期を理解し、エイジズムについて考察する。 ・恒常性を維持する機能の防衛力、予備力、適応力、回復力の加齢による心身の変化を学ぶ。 ・加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響について理解し、交通安全も含めた高齢者の日常生活を具体的に考察する。 ・老性自覚や老年期の身体的、心理的、社会的変化による影響を理解し、高齢者の幸せについて考察する。	○	○		
	7								
2	8	第4編 認知症の理解	1 認知症の人の特徴的な症状 2. 認知症に伴う日常生活への影響	・認知症が及ぼす心理的影響やBPSDの現れる背景について理解し、認知的共感について考察する。 ・住居などの環境の変化が認知症に与える影響を理解し、認知症の人の特性をふまえたアセスメントや生活支援について考察する。	○	○		9	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	9	第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活							
	10								
	11	第4章 認知症と地域サポート			・地域包括支援センターの役割や機能など地域の支援体制を理解し、関連職種との連携や協働について考察する。 ・認知症の人を中心にすえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解する。	○	○		
12									
3	1	第5編 障害の理解	1. 障害のある人の心理 2. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	・障害が及ぼす心理面への影響や家族も含めた障害の受容過程について学ぶ。 ・障害のある人の特性をふまえたアセスメントと日常生活への影響について理解し、自立支援に必要なストレスの視点について考察する。	○	○		6	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	2	第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活							
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	70
Ⅱ 思考・判断・表現					40	20	20	20				100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	① 自立生活の支援に必要なころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 自立生活の支援に必要なころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、ころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

令和8年度 「コミュニケーション技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	コミュニケーション技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	コミュニケーション技術(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① 福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身に付けるようにする。 ② 実践的・体験的な学習活動を通し、コミュニケーションに関する諸課題について発見し、解決する力を養う。 ③ 福祉実践におけるチームのコミュニケーション構築のために必要な資質・能力を育成する。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元(実習項目)	単元の目標(具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	1オリエンテーション 2コミュニケーションの基本技術	人間の理解と人間関係	・人間関係におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、他者理解や自己理解を深める。	○		○	7	・レポート ・小テスト ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	5		コミュニケーションとは	・コミュニケーションの特性と効果的なコミュニケーションの技法について理解する。	○			7	
	6		言語的・非言語的コミュニケーション	・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴を学び、対人援助におけるコミュニケーションについて考察する。		○	○	7	
	7		施設実習(保育)実習まとめ	・子どもの発達について学び、年齢に合わせたコミュニケーションのとり方を実践を通し習得する。	○	○	○	5	
2	8	3チームによる連携	情報の共有化	・情報収集(アセスメント)の意義と目的を学び、正しい情報収集の方法について考察する。 ・情報の共有化の意義と目的を学び、正しい情報共有の方法について考察する。 ・介護現場でのICT機器の活用について考察する。	○	○		10	・レポート ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	9								
2	10	4サービス利用者とのコミュニケーション①	認知症の人とのコミュニケーション	・認知症ケアの視点と認知症の症状に伴う心理特徴をふまえて、認知症の人との適切なコミュニケーションの方法について考察する。	○	○	○	7	・レポート ・小テスト ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	11		施設実習(高齢)実習まとめ	・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 ・コミュニケーション実践を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。 ・円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方について理解する。	○	○	○	13	
	12								
3	1	5サービス利用者とのコミュニケーション②	まとめ	・さまざまな対象者とのコミュニケーション事例(児童・高齢・障害)を通して対応方法を考え、よりよい実践について考察する。	○	○	○	14	・レポート ・プレゼン ・授業に対する主体的、協働的な取り組み
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		10	10		40	40						100	30
Ⅱ 思考・判断・表現			10		30	20	30	10				100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20		10	10	20	10	20	10		100	30
評価の重点	①福祉実践におけるコミュニケーションと関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身につけているか。 ②介護者としての倫理観をふまえて、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけているか。 ③福祉の見方・考え方を働かせ、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけているか。												

令和8年度 「 介護総合演習 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修	
教科	福祉	科目名	介護総合演習	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）				副教材（発行所）			
目標	①地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法						
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ								
1	4	施設実習に向けた学習	1 施設実習<児童> オリエンテーション① (子育て支援について)	・施設実習の意義と目的を理解するとともに、実習の内容や実習期間を把握する。 ・施設を利用する家庭・子どもへの支援について理解する。	○	○	○	6	・レポート ・実習に関する課題 ・身だしなみ						
	5				2 施設実習準備<児童> (子どもの発達と遊び)	・子どもの発達について学ぶ。 ・年齢に合わせた遊びについて理解し、手遊びの計画・準備を行う。	○			○	4	・授業に対する主体的、協働な取り組み ・小テスト			
	6						3 施設実習<児童>			・保育の場における基本的な支援技術を実践し、習得する。 ・実践を通じ、子どもの年齢や発達に応じたコミュニケーションの技法を習得する。			○	○	4
	7												○	○	
2	8	施設実習に向けた学習	4 施設実習<高齢者> 事前準備①	・介護従事者として人間形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 ・利用者の尊厳を守り、信頼関係を気づくための接遇マナーを身につける。	○	○	2	・レポート ・実習に関する課題(実習記録) ・身だしなみ							
	9				5 施設実習<高齢者> 事前準備②	・施設見学を行い、利用者の身体状況を理解するとともに、コミュニケーション方法の工夫について理解する。 ・認知症および認知症の人を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身につける。			○	○	3				
	10								6 施設実習<高齢者>	・介護の場における基本的な介護技術を実践し、習得する。 ・実践を通じ、自立生活支援のために介護が提供されていることを理解する。 ・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。		○	○	3	・発表プレゼン ・グループワーク
	11	施設実習のまとめ	7 施設実習振り返り	・自らの体験を振り返り、自己の実践上の課題等を再認識することで、今後の学習に生かしていく主体性を身につける。	○	○	3	・授業に対する主体的、協働な取り組み ・小テスト							
	12		8 実習報告会	・実習での学びを仲間と共有することで、福祉の多様性について考察する。	○	○			○	3					
3	1	まとめ	9 新聞記事レポート	・新聞の表現の仕方などに着目し、書き手がどのように、どんな意図を持って伝えようとしているのかをとらえる。 ・社会で起きていることを知り、物事を自分事として捉え、どんな社会になってほしいのか、自分は何をできるのか考え、仲間と共有する。	○	○	○	6	・レポート ・発表プレゼン ・身だしなみ						
	2				10 学習のまとめ	・一年間の学習成果をレポートにまとめる。	○			○	○	1	・授業に対する主体的、協働な取り組み		
	3						○			○	○				

35

【観別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		20	50			30						100	20
Ⅱ 思考・判断・表現			30		20		40	10				100	40
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度			20		20		20	10	20	10		100	40
評価の重点	①サービス利用者や施設の社会的役割について理解するとともに、福祉施設で求められる基本的な支援を実践する知識や技術が身についている。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を解決するために必要な、援助者としての倫理観と、合理的かつ創造的に解決する能力が身についている。 ③主体的かつ協動的に学ぶことができている。援助者としてふさわしい接遇マナーが身についている。												